

株式会社ヤマナカ「食育の取り組み」



食育パーパス（理念・目標）

※当社の食育活動は、SDGs（持続可能な開発目標）や、国の食育推進基本計画の推進に貢献するものです。

私たち株式会社ヤマナカは、金属加工の町工場として半世紀以上ものづくりに関わってきた経験を活かし、農業ともものづくりを融合させた「Field to Mouth」（採って、食べる）体験を提供しています。普段は多くの方々や仕組みを経て食卓に届く食べ物ですが、この体験では、「畑⇒自分」という最短の流れを直接感じられます。子どもたちが自らの手で収穫し、食べ、学び、ひと手間加える機会を通じて、食への感謝と地域への愛着を育み、こうした体験を通じて未来世代に「半歩先の豊かさ」を伝えています。半歩先の豊かさとは、例えば、便利さや効率だけを追うのではなく、子どもと一緒に土に触れ、地域の人たちと食卓を囲むような時間を大切にする、ちょっとだけ未来の豊かな暮らしのことであります。

現在および今後の食育の取り組み

米作り&ふれあい体験（3月～10月）

種まきから稲刈り、脱穀まで昔ながらの方法で行い、子どもから大人まで参加しながらお米づくりの大変さと大切さを学ぶ体験を実施。収穫後には籾殻を燃料にした竈「にわ先かまど」で炊いたご飯を味わい、食の循環を実感する締めくくりも行います。さらに、地元高校の探究学習とも連携し、高校生たちが「汚れるのが楽しい！」と田植えや除草体験に挑戦しながら、地域課題解決につながるPRや改善案を考える取り組みも展開。農業を通じて、次世代が地域とつながる学びを育てています。

ぶどうフェスタ！（8月）

独自の栽培システムによるぶどうの「粒どり」体験。3種類のぶどう食べ比べ、オリジナルジュースづくりを通じて五感で学ぶ食育を提供しています。

季節ごとの農作物体験

新じゃがフェスタ！やさつまいもフェスタ！など、地元農家の方々と協力しながら、地域の旬の野菜や果物を活かした「Field to Mouth」体験を展開しています。

持続可能な農業教育

土のない場所でも本格的な農体験を可能とする移動式果樹棚「モバイルグリーンガーデン」を高校へ寄贈するなど、金属加工技術を応用した新しい農のかたちを通じて、持続可能な食と暮らしについて学ぶ機会を提供しています。

